北　國　新　聞　2001年（平成13年）7月1日　（日曜日）

自炊のなべ料理を囲んで歓談する登山者　＝30日午後３時半、室堂センター

２００１年
白山夏山開き

15期　舟田　節子

「一度、白山の夏山開きを見に行ってきたいんだけど…」
学研仲間とのお花見の帰り。山友でもあるＹさんに、その頃の白山の様子を聞かれた。彼女は同行してほしそうだったが、私は普段はナカオの調査山行が優先と言ってある。彼女が同行する仲間達は、真夏の白山なら登ったことがある…とのことだった。

山開きの登山者は多くいるはずである。まず迷うことはあるまいと、防寒着のこと、残雪が多ければ、ルートは十二曲がりを迂回している場合もありうることを言った。次の研修会時には、室堂に確認するよう言ったと思う。

６月になって、「同行者にはこんなリーフを配った」と封書が来た。中身には、「ベテランのアドバイスを、二度も受けたから」と書いてある。おいおい、何も太鼓判押したつもりないゾ！その後、彼女はインターネットで白山情報を楽しんでいたらしい。

２日前になって、また電話。

「結構天気が悪そうなんだけど、上に室堂があるし、大丈夫だわね？」
と言う。もう…。

「ナカオの予定ないし、私一緒に行くわ」

という次第で、夏山開きに行くことになってしまった。今年は丁度、土・日の巡り合わせ。仕事を持つ私にも、チャンスだった。奥名会長が登ることを私は知っていたが、そんな突然の決まり方だった次第で、あえて吃驚させようと伏せていた訳ではない。

その奥名会長とは、別当出合で早くも遭遇した。止みそうもない雨に多数が屯ろしており、諦めて帰って行った。

同行の二人はガールスカウトのリーダーをやっており、さっぱり、てきぱきタイプですぐなじめた。そのうちのＡさんの知人Ｉ氏が、仲間が皆諦めて一人別当に残っており、彼も含めての、にわか５人パーティーで出発する。

別当からの最初の下りからして川になっていた。あとも、登山道＝川。なだらかな斜面になると滑滝のごとく水が走る。私自身は濡れると覚悟しての事だから、雨が降った場合の地形の変貌を「ああ、こんな所が川になるんだ」と、それなりに楽しんでいた。

パーティの方は、Ｉ氏とＡさんの二人、次Ｂさん、Ｙさん私の３組に分かれだすようになる。Ｂさんは時々後ろを確かめているようだ。

甚ノ助で昼食。テルモスのお湯でスープを作り皆に配ると、

「舟田さんの荷物どうしてそんなに重たいんかと思ったら、そんなんまで担いどるが？」
ゆっくりとわかっている時ならね。

北陸中日新聞　2001年(平成13年)7月1日(日曜日)

御来光見たい！

激しい雨にも白山ファン続々

悪天候にもかかわらず続々と到着し、自炊場で食事する登山客＝30日午後3時40分、室堂で

夏山開き前日の三十日、白山は明け方から激しい風雨に見舞われた。登山道の一部はまるで川のように雨水が流れたが、熱心な山岳ファンは、続々と登山基地の室堂センターを目指し、御来光を待ちわびた。

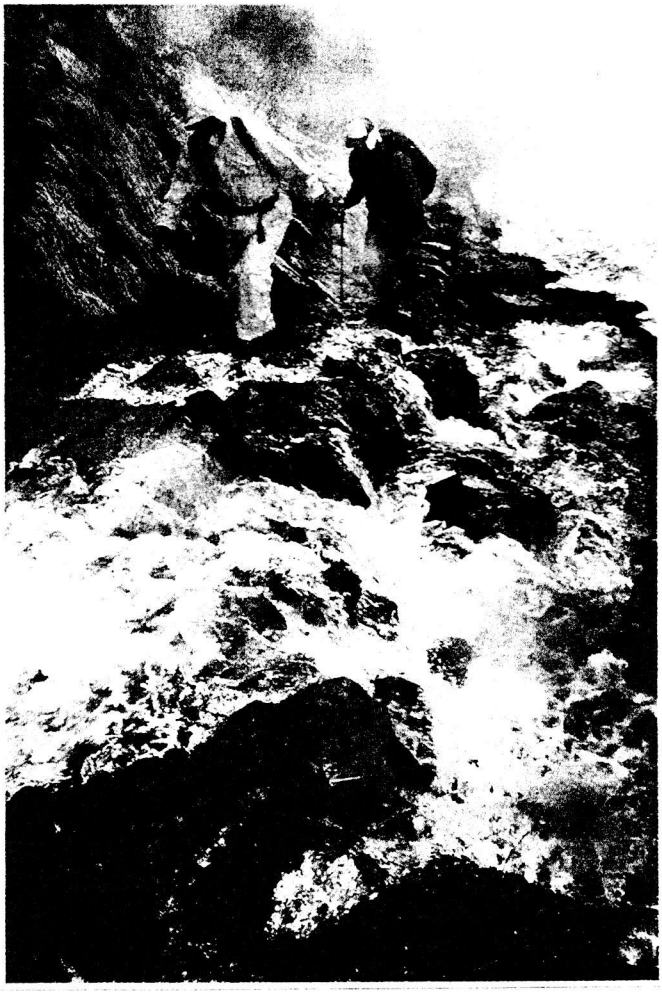
約五時間かけて登ってきた金沢市百坂、会社員大平雄さん(三三)は「大雨の中、雪渓を横切るのが大変でした」と、無事到着しほっと一息。大勢の登山者とともに、一日早朝の日の出を期待した。

かれんな花を咲かせる高山植物も、我慢強く雨をしのいでいるかのようだった。

厳しい山の天気の合間を縫って、来年夏のオープンを目指して改築が進む同センターも、ここ数日間の悪天候で工事を中断。登山者らは、祈るように天気の回復と、さわやかな夏山シーズン到来を願った。

悪天候が続く白山だが、二十九日夕には、一時間ほど、別山と御舎利山が雄大な姿を現した。赤々と照らされたハイマツを手前にそびえる峰々は神秘的に輝き、登山者らは「こんな美しい場面に出合えるなんて」と自然が演出する幻想の世界に見入っていた。

（文・丹羽正生、写真・北村彰）



激しい雨で川のようになった登山道＝30日午前、水屋尻雪渓付近で

そこからはトラバース道を、何条もの水流が横切るようになる。疲労気味だったＹさんは、フラッと、左カーブの登山道ではなくそんな沢に入りこんで行った。瞬時、悪路の迂回と眺めていた私は、慌てて呼び戻す。早めの訂正ですんだ彼女は

「やっぱりついてきてもらって良かった。全然気がつかなかった」

ああ、こうやって遭難予備軍になるんだなあ。

五葉坂整備中の今は、水屋尻雪渓横を迂回するルートになっている。そんな凹地に、豪雨は流れこみ、足を取られる程が、２箇所あった。

室堂は改築中で、センター前のプレハブが休憩舎、兼自炊棟になっている。中には奇妙な連帯感が漂っていた。みんな、あの豪雨をついて登ってきた数寄者同士だ。

Ｉ氏が早速「今年も来ました」と挨拶に行った。聞けば、毎年夏山開きに顔を合わせる連中で、実の所、全員の名前を完全に知っている訳ではない。それでも、一年に一度、七夕の様に夏の白山山開きにだけ顔を合わせる山仲間なのだという。へえ、面白い付き合いもあるものだ。徐々に聞いた所、壁屋のＩ氏はじめ、それぞれに自由業のようであった。

さて夕食。

「防災訓練でもらった即席炊き込み飯。あれ

他のグループの話も耳に入ってくる。

「神岡から入れるじゃん。寺地に避難小屋あるし、あとは小屋で縦走できるじゃん…」

思わず、

「あの避難小屋は小さいから、誰か他のパーティが入ってたら、もう泊まれなくなりますよ」

と言ってしまった。そんな予想をしない人は、どんな装備を担いで登っているんだろう？

なら軽いし、みんなの夕食分持って行くわ」
のYさんが、車に忘れてきたという。私は今回は道案内に徹し、リーダーをYさんとしてきた…構えば構うほど、
「また連れてって」
になる。彼女の集めたグループに、それ以上の責任をもてない、が私のシオリーだった。もちろん予備食は持っており、仲間も
「昼ご飯余ってるし、明日の分もあるし」
と、笑い合った。私も、仲良しで何かとお世話にもなる彼女を、なじろうとここに書いている訳ではない。シオリーのつもりでいて、用心が足りなかった。予備があると言いながら、急におなかがすいてきてしまった。

救ってくれたのは、先のI氏の七夕仲間のN氏。超数寄者であって、山開きの日の宴会を楽しみに、いつも凝ったメニューを担ぎ上げているという。今年はおでんで、十分下煮済みの物。それを発泡スチロール2箱に詰込み、温めて七夕仲間ほか皆の衆に供していた。
どっかりおでん鍋の前に座込み、感謝して頂戴した。せめてものお礼ばかりに、キャーキャー賑やかに頂戴し、この「楽しそうな光景」は、居並ぶ北国新聞、北陸中日新聞記者の取材する所となり、両紙面ともを飾ることになってしまった。

そのように、プレハブの一角を取材陣が占めていた。記事も映像も、ここから衛星を使って瞬時に送られてしまう。「今日の夕刊は？」「去年の山開きは？」と言うと、ノートパソコンの画面を次々に見せてくれた。天気が悪くて、待機しつつも時間を持て余しているお兄ちゃん達と、我々賑やかおばさんはキャーキャー歓談し合った。ちなみに
「こんなガスや雨の中、レンズの保守はどうしているのか？」
と聞いたら、
「乾いたタオルでこまめに拭く。それしかないんです。」だった。
修験者の3名も入ってきた。比咩神社の一派かと思ったら、長年、福井三國のお寺の北陸修験道白山会が、ここの開山を務めているとのことだった。先年より老山伏に代わり、「これが来てるんだよ」と、開山式のこだわり人N氏が言う。ガキ扱いされている二世山伏氏は案の定？法螺貝を忘れてきていた。明日は御来光が見えるはずがない。それでも朝6時には登頂して、読経と万歳三唱をやってくるという。
先の鍋席に実は、後で着いた奥名会長も同席していた。彼が
「彼女とは、同期。大学のクラブも、学科も一緒」
と紹介したら、みんな
「へ～、こんな所で会うなんて奇遇だね」
と感心していた。何のことはない。下では会わなくても、山では会うことになっている、そんなワンゲルOB会の超腐れ縁だべ。なお、彼の方は自然観察会の仲間と奥さんとで来ていた。
外はまだ横なぐりのガス。それなのにやや改善したと見たか、40人ばかりの、静かな、東京からという中年グループが
「今から、お池巡りに出掛けまあす」
の一声で、ぞろぞろ出て行った。呆れたが、1時間たらずで戻ってきたようだった。

翌朝もガスだった。6時少し前、お約束通り山伏装束に身を固めた3人が出掛けて行った。万が一と、日の出時刻に合わせて登頂を果たしていたという報道陣が、また彼らを追って出掛けて行った。その彼らは、薄日が差し出した8時過ぎには、この光景を撮影せねばと、また頂

二世山伏と言っても、これくらいのお年。頂上から戻ってきて、さっそくお肉をジュージュー、にこにこ眺めていたら
「お肉に見えるでしょ。でも、こんにゃく、こんにゃく」と言って、食べていた。

上を目指して行ったのだ。

「こんな仕事、若くなくちゃやれんね」

と、私達は感心して彼らの往復を眺めていた。そして、彼らはまだ複数だからいいとして、単独で取材に来ていた朝日新聞のお兄チャンに同情して、熱いスープを勧めたりしていた。

奥宮社務所に人が集まりだした。開山式の祝詞のあがる間に、すうっと外は明るくなりだし、お神酒をいただいて外へ出ると、頂上奥宮が光って見えた。

寝不足で体調が悪いというBさんを残し、頂上ワンデリングへ。雨のせいもあり、甚ノ助上からはあまり花を見なかったが、そこら中、水滴をキラキラ光らせている黒ユリであふれていた。あの豪雨で洗い清められたような頂上に着くと、さらに夏山到来そのものの景色が広がっていた。たっぷりの雪や水をたたえるお池を巡り、大汝にも足を伸ばす。

Bさんは、皆の濡れ物をすっかり干し上げて待っていた。その頃には日帰りのくろゆりクラブ一行が上がって来、ナカオのKさんも上がってきた。知り合いだらけになってしまった。

席を空けるように、プレハブを後にする。日は高く、雪の表面が緩みだしていた。キックステップを教え、快適に鳶岩コースで下る。夏よりずっと早く、南竜山荘に着いた。ここに備え付けのKUWV連絡ノートに「21世紀一番乗り！」（ノートの上では）と記す。

終わりよければ全てよし。汗ばむほどの陽気の中、車に着いた。みなさんには

「やっぱりベテランと行くと違う。すごく楽しかった。」

と言ってもらえた。私も、ナカオでもなくワンゲルでもなかった白山が、楽しかった。白山を好きな人がいっぱいいるんだな…そんな当たり前なことに気付いたし、行って損した山なんてないもんだと、ご縁を作ってくれたYさんにも感謝した。そして

「いやあ面白かった」

と家に入ったら、旦那も息子もニヤニヤ。机の上の北国、北陸中日新聞ともに、おでん宴会中の私が載っていた。もうバレバレだったのだ。さらに翌日の北陸中日新聞の一面に、今度は頂上での写真が載っていた。

その後も、何人にも「写ってたねえ」と言われた。舌打ちするように出掛けた白山だったのに…。21世紀初の山開き…ちょっと暗示を受けたような気のしてしまった山開き…。

さて、おでんの恩人を調べて、104 で確認しお礼を送った。その返事。

暑い日が続き、次は何処と毎日山のことばかり考えています。新聞とお菓子と山の本有難うございました。毎年の恒例の事で、自分としては「分けてあげた」という気はなく、食べて頂いたというのが本音です。（残ったらどうしよう。持って帰るのはいやだ！）ですから、あまり感謝されると、てれてしまいます。有難うございました。

自分は丸岡で丸岡山の会に所属し、地元の丈競山（たけくらべやま）の登山道整備とか小屋の掃除とか飲み会に忙しく（仕事より）活動しています。石川県境の富士写の隣の山で一昨年小屋が出来、掃除とメンテナンスをうちの会が受け持っています。そんな訳で、夏場は、白山か丈競山というのが最近です。明日は天気がよければ白山かな？海の日は西穂から槍なんて考えています。とりあえずお礼まで。

まだ雪に埋まる鳶岩コース。暴風雨を登ったはずなのに、日焼けして帰る。

――――――――――――――――――――０３期登内
毎回メールと綺麗な写真とを有難う御座います。石楠花の宴に参加をと考えていましたが、今回も都合がつきません。一度も山小屋に行ったことなく、そのうちに参加させて戴きたく思っています。小屋までの所要時間(歩く距離と時間・交通機関が使えない区間)はどのくらいでしょうか？

――――――――――――――――――――０３期西尾
いつもいつも、何かと、情報提供やお知らせを頂きながら、当方からは全く“ＮＯ　ＲＥＳＰＯＮＳＥ”で、本当に恐縮しています。標記については、奥名さんからは何度もお知らせを頂き、また、舟田さんからも連絡をもらっていますが、今回も都合つかず出席できません。
昨日と今日の二日間（７．８日）、田村さん、登内さんと、長野で落ち合って久し振りの再会を喜び、まだ残雪の残る、小谷温泉へ行って来ました。
小谷温泉の山間のすばらしい景色を眺めながら、山の幸、地酒、そして、温泉を充分に堪能しました。
田村さんは、「しゃくなげの宴」に出席する為に、今日金沢入りしました。
登内さんは、都合悪くて欠席のようです。

――――――――――――――――――――０７期村田
「やまざと」ありがとうございました。
お正月はアメリカはOregon 州のPortlandで過ごしました。友人宅で　１１日間無銭飲食をしておりました。これが敷地６００坪の豪邸（日本では）で、私が使っていた部屋でも、バス、トイレ、洗面所付きで、２０畳はありました。持つべきものは友ですね。ポートランドの空港に下り立って、最初に目に飛び込んできたのは、青空に浮かぶ、真っ白に雪を抱いた素晴らしい山でした。Cascade山脈の中の一峰、Mt.Hood　でした。標高３４２６米、アメリカ第二（第一はカナダにあり）の氷河を持つ高峰でした。この他、十数年？前の噴火で頂上が吹っ飛んだSt Herens、そして、Jefferson、Three Sistersと三千米以上の山が幾つかあり、それぞれが単峰として聳えている姿は、山好き人間の心を揺さぶるには十二分のものがありました。早速、Mt.Hood　の地図を購入しました。山裾には三カ所のスキー場があり、リフトの最高地点は２４００米、その上は道は書かれていません。頂上付近は、日本の山にたとえれば、剣のような険しさに見えました。例年ですと、この季節、Oregonは雨（雪）が多く、スキー客以外はこの山に近づく人はいないとのことでしたが、晴れ女の私が、日本から好天を持って行ったようで、滞在中はずっと好天に恵まれ、そのお陰で、Mt.Hoodへも行くことが出来ました。１８００米辺りのTimberline Lodge まで、四駆で楽々と登ることが出来ました。このロッジはあの世界大恐慌の時、公共事業の一つとして建設されたことで有名なものでした。ここからはMt.Hoodの頂上のみならず、はるか彼方の山並の向こうに浮かぶ、これまた素晴らしい姿のJefferson は正に絶景でした。いつか、この山々に登ることが出来ればと、又一つ夢を増やして、短いアメリカ旅行を終えました。

――――――――――――――――――――０９期保田
加藤さん
　貴労作が名古屋の留守宅に届いたと連絡ありました。非常に楽しみにしていますが、帰名の予定は９月の敬老の日で残念です。ところで先週の土曜日に帰名した際に、同期の白井、吉田（洋）各兄と食事をしました。吉田（洋）兄は名古屋新空港建設の関係で逆に名古屋に単身赴任しています。白井兄も役員の風格がますます出てきたようです。皆さんの事も話題となり、その晩はくしゃみがでませんでしたか？

――――――――――――――――――――０９期吉田
やまざと14号ありがとうございました。
犀滝への道作りを　平村さんとしたのを　思い出しました。又、山小屋作りの際　５０ｋｇのセメント袋を　倉谷部落から小屋位置まで　背負って　行ったのも　思い出します。一杯　思いでの　つまっているBergheimです。昨年12月は　東京で　鍋島さん伊藤さん保田さんのお蔭で忘年会が　開催され　楽しいひとときを　過ごすことができました。私の椎間板ヘルニアも　手術せずに無事解消しつつありなんとか　山登りの継続が　可能なようで　これから頑張ります。
E-mailアドレスが　一字抜けていましたので修正お願いします。本年もよろしく　御願いします。　９期　吉田幸造

――――――――――――――――――――１０期木津
この、土日に立山室堂から、奥大日岳～大日小屋（１泊）～大日岳～大日平～称名登山口という１泊コースで初めての大日岳を満喫してきました。
初日は、稜線に取り付いたのが午後でしたのでガスの切れ間が無く、奥大日岳からの剣岳は望めませんでした。
大日岳小屋は満杯で、食堂に寝かされました。午前４時にリーダーから「木津さん星空だよ」と起こされ、強風の中カメラにかじりつきながら、朝食に呼ばれるまで、剣岳をひたすら撮影しました。その刻々と変化する山の姿に感動しながら、「これでやっとお釣りが来たね」「三脚をボッカした甲斐があったね」等とリーダーや同好の皆さんと会話を交わしながら、早朝の一時をすごしました。
二日目は、大日岳に寄って、称名側に下ったのですが、土曜日勤めの関係で、参加できなかった、私のカミさんとその山友の、田村厚子さんが、案の定、１１時頃大日平より登ってくるのとバッタリ出合いました。今日は暑いし、もうここから一緒に引き返したらと水を向けましたが、せっかくだからと、彼女たちは大日岳めざし登っていきました。

私等は、リーダとサブリーダーを除き、私も含め４名は中高年初心者の部類に入るパーティーなので、称名から大日岳を往復するという計画には唖然とするわけです。だって、私を含め皆さん、足を引きずりながらまだかまだかと、称名目指し、下っていたわけですから。午後５時頃、厚生年金休暇センターで一風呂浴び、帰途につこうとしたときに奥様二人の大日岳に登ってきたよ、今から、温泉めざして立山町界隈を走っているよ。と連絡は行ったときには、さす

が一同、へーってなもんでした。

*

撮影フィルムはポジ８本、まだ現像中なので、とりあえずデジカメでゲットした、朝焼けの剣をどうぞ。

大日小屋からの剣岳の先鋭なピークは初めてみる剣岳の別の姿でした。早朝の剣は、あいにくと全くの逆光になるので、モルゲンローテンは見られませんでしたが、朝焼けを支えるシルエットとしてゲットできました。
また、４時頃には、明るく輝く２個の星が頂上の上に光っておりました。一つは、昴らしいのですが、私は普段でも点が３つほどに見えるひどい乱視なので、その特徴が今ひとつ、判別出来ませんでした。ポジが上がってくるのを楽しみに待つとして、デジカメ画像（未送信）をどうぞ。

――――――――――――――――――――１１期青柳

7月に尾瀬至仏山に登り、夏は「花の山」に限るとナットクし、岳人の別冊２００１夏山「百花繚乱フラワートレッキング」を買い込んで選んだ山が「白馬岳」。（この別冊には19期の栂さんが「加賀白山」を書いており、これは去年登ったんだ）
コースは、８月７日から、猿倉の駐車場を起点に猿倉－大雪渓－白馬山荘（泊）－白馬岳－杓子岳－鑓ケ岳－鑓温泉小屋（泊）－猿倉と白馬三山を一巡りです。（雑誌は、栂池から入り、清水岳トレックだが雪と温泉優先が私流）

さて、前週までの猛暑の続きで、好天・猛暑を予定していたが、7日、早朝基地である麻績の別宅を出るときから雨が降り出した。結局7日の雪渓登りは、雨の中。8日は、朝は晴れるも、10時頃よりガスが湧き出す。最後の9日も、雨になって、天気は２敗１分け。白馬大雪渓は雨の中を登った。ワンゲル１年の夏合宿、針ノ木の雪渓を雨の中登ったことを思い出す。また、３年の夏合宿では、槍沢の雪渓を、台風の来襲で雨の中非難した。どうも、雪渓歩きは、ついていない。
でも、２時間半ほど視界が利かない中を、ヒイヒイ歩いたら雪渓の上に出た。雪は得意だから、アイゼン無しで問題なく歩けたが、雨と汗でメガネが曇るのには参った。雨が小止みになり視界が広がると、そこにはお花畑が広がっていた。
葱平から氷河公園とお花畑が続く。上部の小雪渓は消えていたが、その分お花畑が広がっていた。オタカラコウとクルマユリの群落。ハクサンフウロが色を添える。葱平の名の元になったシロウマアサツキの赤い丸花が愛らしい。ミヤマトリカブトの群落が現れ、お花畑が紫色に変わる。その先は、シナノキンバイの群落で黄色に輝く。標高を上げるに従い、花々が変わるのが楽しい。
今回白馬のっ三つの頂では、すべて視界に恵まれなかったが、お花畑の多彩さは、タップリ楽しんだ。

二日目、森川さん推薦の旭岳のお花畑は、ハクサンフウロが満開だった。鑓温泉に下る大出原のお花畑は、チングラマ（の実の穂）が一杯。その下部は、ミヤマキンポウゲの黄色い原。さらに下るとハクサンコザクラが咲き誇っていた。

三日目は、雨の中を下ったが、まず斜面を埋め尽くすクルマユリに圧倒され、次にシモツケソウの赤い花、そしてヤマルリトラノオの薄紫、さらに白い花のトラキボオシやシロバナヤマホタルブクロと次々にお花畑の色が変わる。尾瀬で馴染みのキンコウカと水芭蕉まで現れ、最後はやヤマアジサイの青い花に魅せられた。
白馬の稜線の花は、有名なウップルソウは青い花が終わっていたのが残念。チシマギキョウとミヤマリンドウ、トウヤクリンドウが可憐さを競い、特異な濃青のミヤマアケボノソウが岩間に咲いていた。そして、圧巻は山の花の女王コマクサの大群落。杓子岳と大出原上部にガレ場の上から下までコマクサが斜面を覆い尽くすさまには感激。これだけのコマクサを見たのは、そう１年の夏合宿の蓮華岳以来だった。
花の名は、山小屋で買った花の本と、飽きずに撮った写真を見て書いたもの。白馬はまさに花の山。花の写真を撮っていると時間を忘れるから大変。二日目、３時ごろには小屋に着く予定が、５時を超え、夕食が始まっていた。

白馬山荘は１５００人収容可能な日本一大きな山小屋だ。雨降りの火曜日だったが、さすがに人が多かった。カイコ部屋のたたみ一畳に寝させられ、食事は３交替だった。１泊２食付き８６００円なり。ここの売りは、雲上レストラン、スカイプラザ白馬。生ビール８６０円なり。
鑓温泉小屋は、鑓ケ岳の中腹２０００ｍの岸壁に張り付いて建つ。収容人員１５０人で、白馬山荘と同じ経営で、やはり１泊２食付き８６００円。４５℃の硫黄炭酸水素塩泉で、標高は森川さん指摘のとおり日本２位だが、天然湧出量は標高日本一だと言う。源泉は、小屋の上の岸壁の割れ目で、透明な適温のお湯がコンコンと流れ出るさまはスゴイ。２０００ｍのこの場所のどこにお湯を作り出すマグマがあるのか不思議だ。ヨシズに囲まれた露天風呂は混浴、ただし２０時～２１時が女性専用時間。別にベニヤ囲いの女性専用風呂があり、通常は混浴にはならない。この露天風呂から眺める御来光（戸隠連山から上がる）が有名だが、当日４時半に起きると無常にも雨が降っていた。それでも、小雨をついて風呂に入った。雨の中でも入る風流人は他にいず、一人でユッタリと霧で真っ白なスクリーンに御来光を想像していい気分になったものだ。

前日は、白馬岳山頂での御来光を見る予定だった。朝４時過ぎに起きると、前日夜中まで降っていた雨は止んでおり、満月に近い月が出ている。勇んで仕度をして、御来光を見に登った。妙高の頂きがわずかに顔を出す雲海が見事。４時５７分、空が紅く染まって、日の出の瞬間を迎えるまさにその時、富山側からガスが吹きあがり、無常にも太陽を覆い隠す。雲海を昇る瞬間を捕らえるべくカメラを構えていたが、ガスの中に輝く紅い丸い玉にシャッターを切ることになってしまった。

なかなか思いどうりに行かないもの。ガスの中を山頂まで登った。山頂には、新田次郎の「強力伝」で有名な５０貫の方位盤がある。その表面には佐渡ヶ島から能登半島、白山、槍ケ岳さらに富士山まで見えることが書かれているが、それらはガスの中でまったく見えなかった。巨大な方位盤のシルエットを写真に撮って山頂を後にしたのでした。

始めての山で、期待したことの１００％を満たしてくれることはまずない。今回は、期待充足度４５％くらいか？　また来いよ！と　山が言う。
ただ、ガッカリさせた後に、別の楽しさを与えてくれるのが山。白馬山頂では、ガスのおかげで、ブロッケン現象を味わう。また、大出原では、雷鳥の親子が姿を見せてくれた。カメラの前では絵になるポーズを作ってくれなかったが。
白馬岳は、あまりに有名なため避けていた山だが、ヤッパリ魅力一杯。平日で天気も悪かったこともあるのか、登山道も渋滞になるほどの混雑はなかった。山の魅力を手ごろにタップリ楽しめる山として、やはりお薦めだ。雨の山でも、最新装備で武装したオバチャンたちは元気だ。でも白馬ではファミリー登山者と若い女性登山者も結構いたのが嬉しい。

私も去年の白山以降、最新装備を整えてきた。ゴアテックスのレインスーツとダクロンの速乾パンツ・シャツ。ＬＥＫＩのステッキ（フォットシステム）。さすが、良いものはヤッパリ良い。雨の中の山歩きに効果を発揮してくえた。もっとも、レインスーツは上着はほとんど着ず、ワンゲル流の折りたたみ傘で済まし、ステッキは、カメラの一脚として使う方が多かったが。装備は元気なオバチャンたちにほぼ追いついた。あとは、継続的なﾄﾚｰﾆﾝｸﾞと時間確保で、投資資金を回収しなくっちゃ。
さあて、次の秋山は、どこに行こうか？？

――――――――――――――――１１期井上家
名カメラマンにして名プロデューサーの加藤さんいのうえズです。
いやあ、大作ですね。これで、ドキュメンタリー大賞は、もうもらったも同然ですね

昨日届いてまず、和子＆聖子で試写会をおこない、その後、フミゾウ父も合流し、そして今日、計３回のビデオ上映会となりました。何回見ても笑えるのは、やはり「他人とは思えない二人」です。

あの楽しかった２日間は一生忘れられません。そして、このビデオも永久保存決定です。それにしても、なぜ３０年前の映像にはわが父＆母の姿が欠片もないのでしょうか？

Ｐ．Ｓ．　先日の白山登山は、天候も悪く日帰りとなりました。おまけに、負荷を増した身体がたたり頂上は断念。さらに、デジカメの映像はおしゃかになりリベンジを誓いました。１０月には妙高に行きます。そして、体力づくりのために、ジムに通う予定です（９月から）

――――――――――――――――１１期片田
森川様
　写真有り難う御座います。みんなの笑顔がすばらしいです。あらためて先日の御礼を申し上げます。
　先日のmeilで平日の空いてる状況を知り昨日12日工場が休みだったので福島県の羽鳥へ行ってきました。家から車で2時間半で4時間券を買い思い切り滑ってきました。バイク用フルフェイスのヘルメットをかぶり（まだバイク乗っています）上級コースを直滑降ですべってきました。高速リフト7分滑降3分で10分ピッチで10回クラウチィングでの９０ｋｍ／ｈ前後でのコーナリングを満喫しました。スピードに慣れるともっと急斜面がほしくなりまた学生時代に使っていた長く硬いスキーをもってくれば良かったと悔やんでいるのでした。ただし疲れて３時間で終わりにして帰ってきました。

――――――――――――――――１１期加藤
立秋を迎え、暦の上ではもう秋です。
あーあー夏休みという期間ももう２週間となってしまいました。
夏休みから本格的に始めたVTR野沢スキーがようやく７割方完成までこぎつけました。何せ、映像が無いのが致命傷です。苦労の跡がわかる作品となる事でしょう。２分間の編集に何日もかかったりVTR編集というのは、ただのダビング作業と違いホントに時間がかかります。少々お待ち下さい。

舟田事務局長様
BHの方はさらにもうちょっと待ってください。遅いので何もしていないのではないかと疑っておられることと存じますがこれでも能力的には精一杯なのです。

――――――――――――――――１１期小山
暑中お見舞い申し上げます

　新しいスキー板を買い
　　ジョギングに精を出しています

――――――――――――――――１１期芝田
写真つきのメイル、ありがとうございました。ベルクハイム、お楽しみのようで。わたしは、連休の後も新緑の信州をサイクリングしたりしております。

ちなみにわたしの妹もサイクリングに凝っており、２年つづけてカシュガルからビキュケクまで国境を越えて走ったりしております。彼女、連休は糸魚川から諏訪まで走ったようです。
以下は、私が妹にあてたメイルです。
私も後半は２泊３日のサイクリングに出かけました。この季節の安曇野はいろんな色が鮮やかですね。

１日目
池田町美術館まで車で運んで、ここからスタート。ゆっくりと、大町から先はひたすらこいで、木崎湖、青木湖は西岸を走り、佐野坂峠を一気に白馬まで下りました。夜は、みそら野のペンションで泊。野々市小学校の後輩になる青年と出あいました。

２日目
国道の峠を越えて鬼無里村、さらに登って戸隠へ。ここの民宿に泊。

３日目
同じ道を鬼無里まで下り、小川村、美麻村と山あいを縦断。新行から木崎湖に下り、国道へ。そのまま必死に漕いで、穂高まで下り、そこで富士見行きの電車に乗りました。自転車は翌日車で回収。白馬村と長野市の間の山あいの集落、何度も行きましたが今の季節、特にいいですね。

――――――――――――――――――１１期長岡

前回書き込みにある，NHK-総合TV，11月22日(木)での，「人間ドキュメント」にて，タイトル「仙人池のかあちゃん」，再放送が12月５日夜24:15～にあります。仙人池小屋は，昔（25～30年ほど前）よく出かけていた所であり，それ以来のお付き合いです。

もし，ご興味のある方がありましたら，どうぞ覧下さい。――ただし番組では，もう少し，秋の見事な眺めが紹介されるかと思ったものの，人物中心でした。

ところで：

先の連休，お出かけの方も多かったと思いますが，当初の天気予報とは違って，３日間とも実に穏やかな秋の快晴と大展望。以下，遅ればせながら，各地の事情紹介をかねて。今年は，松本近郊を除いてもう無理ですが，雪解けの頃にお出かけになると，何れも，昔，WVで歩いた山並みを，懐かし偲ぶことができるでしょう。そんな大展望の地のご紹介です。

23日，上信越自動車道から，佐久・三才山トンネル・松本・安房峠経由富山県（実家）へ。

予定通りの快晴に気をよくししつつも，夜明けに望む浅間山はまだ雪もなく，完全に裸のイメージ。佐久の盆地では，朝方の低い霧。やはり晩秋の朝。　三才山トンネル東側上部では，カラマツ林に名残の黄葉の色が見えるものの，日陰のこと故，朝の路面は圧されて凍った霜が一杯で多少怖い状況。これを抜けると，松本側は一気に日だまりといった風で，下るにつれて雪の北アルプスの眺めも。

時間にゆとりがあることから，毎回，市内を通過するごとに気になっていた「アルプス公園」へ。地形的には，松本盆地を隔てての北アルプス南部の展望が広がる筈，かつ，道路地図に「展望」のマークがあるので行ったものの，あちこち見ても樹木にさえぎられて展望には今一つ。終点にある博物館屋上に見える展望台へと，入館料100円で。ほどほどの眺めながらも，展望を金で買うようで今一つ。館内の展示も，一時代前のような。

公園内で，ゲートボールのようなのをやっていらっしゃった方のお話では，北にわずかに見えている「青年の家」辺りが良いと。行ってみたそこは，いまどきもう流行らないのか，閉鎖中。途中に一箇所，古い展望台があったが，樹木で今一つ。近くの畑での方に聞けば，西の方に大きな展望台とのこと。５万図に「芥子望主山」とある所で，誰も利用しそうもない山中に立派に整備された園地。「農産物直売所」の案内板があったので行ってみたところ，そこに巨大な展望台――名称とはどう見ても一致しないが，予算（補助金？）のための方便か。施設は，木貼りのなかなかのもので，上からは，松本市街が一望，ただし，山のほうは今一つ。足下の最高地点には，江戸期の山岳信仰の石碑を集めた塚と，その中央に二等三角点がひっそり。

さらに北へ車道沿いに。好展望が約束されている地形ながら，樹木に隔てられて今一つ。一旦谷へ降りて，見えていたレーダードーム（？）高塔（５万図の846m地点）へと細い道を辿って，ここに到ってようやくに北アルプスの大展望。さらに北へ，余りお薦めできない細い非舗装道を辿って，広い道に合流した所で，一旦南へ行って，光城山。かなりの規模の古い山城で，樹幹越しながら，展望もなかなか。後は，北へ進んで，長峰山（長野自動車道の明科トンネル直上）。

ここにも前述同様の展望台。しかしそれに登らずとも，広い山頂ではどこでも北アルプスの大展望。のんびりお弁当の人々や，ハングライダーの人。ここに到ってようやくにたどり着いた，白馬岳以下の延々と連なる北アルプスの眺め。地元の人には周知の場所でしょうが，近くを通過時に晴れていれば，今後は是非立ち寄ってみたい所となりました。

下って次は，木崎湖西の小熊山から鹿島槍スキー場への，尾根沿いの林道へ。途中にハングライダーの場所があったりで，往復の車もちらほら。しかし，標高1200～1300mの尾根を連ねる道のために，狭い範囲ながら路面結氷も各所で。展望は完璧に申し分なく，カーブを廻るごとに，爺ヶ岳，鹿島槍ヶ岳，五龍岳。それぞれに谷を隔てて，山麓から，雪をまとった頂稜までの，余すところのない眺め。スキー場に着いて，ついでに西の大谷原へ。ここは，鹿島槍などへの登山口につき，車10数台。この河原からも，目前に仰ぐ雪の鋭鋒が見事。

24日午前：秋の抜けるような空のもと，実家から近いことを良いことに，富山県八尾町奥の白木峰へ。昨年の同時期にも訪れてご紹介を書き込みましたが，昨秋とは打って変わっての好天。風もなく，1600m近くの山頂でも寒くはなし。普通の年は来られないここも，今年の遅い雪と好天のゆえに，ほどほどの賑わい。と言っても，登山口（標高1320m）での車は数台ほど。

昨年の今頃もここで紹介しましたが，隔てるものとてもないこの頂きからは，定高性を持って広がる飛騨の山々の彼方に，かなり下まで降りてきた雪の一線を画した北アルプスの山々。北端の特徴のない山から始まって，丸っこい朝日岳，毛勝三山，奥の白馬岳など，剱岳，立山，薬師岳，その間に針ノ木岳など，さらに，水晶岳から北ア中央部の山々，特徴のある槍・穂高と，意外なところに笠ヶ岳。さらに，乗鞍岳，御嶽山。その間には中央アルプス。どっしりとした御嶽山から右（南）は，低くなって，ポチッと小さく小秀山なども。高山市と庄川上流域の山々が連なって，南西から北西方へは白山の高まりとその北の山々。能登半島の基部と富山湾などの眺めも。

この山での晩春にはスズタケ（ネマガリダケ竹の子）採り，初夏には山上の池塘でモリアオガエルの産卵，ややあって一面のニッコウキスゲ。今はまだらに雪の残る笹原と，それ以下の山腹は全山落葉を終えたブナの純林。数年前に完全撤去された巨大なNTT中継所跡は，そのヘリポートさえも次第に風化の中に。この道は，今週にはもう雪で上部は不可でしょうが，普通の年は６月下旬には可。辺鄙な所ながら，眺望にはお薦めの地です。

25日帰路，
予報とは打って変わって，くずれそうにもない青空。松本で，ついでにと，美ヶ原（王ヶ頭）へ。何よりも，松本・浅間温泉からの林道が無料になっていたのが嬉しく，上りつつ曲がるごとに，落葉を終えた樹間に見え隠れする北アルプスの諸峰を確認しつつ，終点の大駐車場に。標高2000mでのカラマツ林は，もう名残の色もなく，寒々としたこずえのみ。絹層雲のもとでかげりの見え始めた空。やや霞んではきたものの，さすがに展望の名所。北東方には，浅間山，四阿山など。北西方には，北方は霞んでしまったものの，松本盆地を隔てての北アルプス全山。この辺り一帯の道は，12月１日から４月19日まで冬期閉鎖の表示。アンテナ林立でバカにして，随分行っていなかったものが，行ってみればやはり展望の名山。改めて見直して，夏の高山植物の頃が楽しみです。

ともあれ，ちょっと得られないような，連日の展望でした。北陸ではいよいよ雪，ほかも寒気到来の季節。では皆様，どうぞご自愛ください。

――――――――――――――――――――１１期森川

小春日和？の２３日三重の美杉ビレッジの温泉へ行ってきました。小春日和が昨日も続いたので鈴鹿の藤原岳麓の聖宝寺へもみじを見に行き民家の家先でやっていた店？で麦とろを食べてきました。鈴鹿でとれた自然薯も売っていたのですが、２０００～３５００円と高く擦るのが面倒とのクレームがあり、泣き泣き帰ってきました。

２００１年、、、鉄腕アトムが活躍した２０世紀に別れを告げ希望に満ちた２１世紀になるはずでした。それなのに、銀行の不始末による不況の上に、アフガン、自衛隊法の改悪、財政改革が急務なのに外国には気前良く援助の約束をして、改革・改革とお経を唱えなにもしないＫ総理・・・・・・。そして、加賀の元おひい様のお言葉。

イイカゲンクラブの会長としては、耳は痛いですが、おひい様が言われることは同期の仲間としては寂しい限りです。加賀の元おひい様は野山の華のように永遠であって欲しい。

少し早いですが、２００２年こそは夢のある年になって欲しいですね。それに備なえて、１２月は少し大人しくしてごますりに徹しようと思います。
今年は天候に恵まれ、予定した所ははぼ、全部行けました。雨に降られたのは、スーパ林道・新岩間温泉の１０／２８（日）の午後のみ。
雨で中止したのは１１／３（土）の桑名の六華園庭園のみ。今年行った中でお勧めの宿を会長だけに知らせます。「仙水小屋」北沢峠下車徒歩４０分、要予約、６５００円（一泊２食）今までに泊まった中で最高の食事でした。是非来年奥様と二人でどうぞ。甲斐駒も近い？ですよ。行く時はくれぐれも予約を忘れずに。
ＴＥＬ ； 055-276-6293

野沢、アオヤギさんが張り切っているが、
祭りの日と会わない方がいいのでは？要確認方

――――――――――――――――――――１３期柴田

１３期、秋の同期会（１１月３・４日）の報告をさせて頂きます。

ワンゲルのＯＢでありながら、山河とは無縁の生活を送っている大半の１３期、今年（第９回目）の旅行のテーマを『山』と『川』に設定してみました。まず『山』として選んだ京都『嵐山』はブッシュの代わりに人をかき分けるのがたいへんでした。『川』としての『保津川』は遡行したかったのですが、濡れるのがイヤと言う人もいた為、船に乗っての優雅な川下りと相成りました。油断したため、波をかぶってジーパンを濡らし、結果的に冷たい思いをした人もおりました。この２日間、歩きどおしで足腰に痛みを訴える者続出となりました。

渡月橋のたもとで頂いた秋田のそば、天龍寺の湯豆腐、共に美味でしたし、宿での京風創作料理、ワンゲルの食事と比べれば、上品な事この上なしでした。年に一度の同期会は私たちにとって、かけがえのない『財産』となっています。今年は１１名（伴侶１名オープン参加）が結集。来年の幹事・日程も無事に決まり、またの再会を期してして解散となりました。まずは報告まで。

――――――――――――――――――――１５期上馬

９月の声を聞く頃から急に涼しくなってきました。山では朝晩寒いくらいでした。
先週は、楽々新道を上り、小桜平避難小屋泊、大汝峰から中宮道を下りゴマ平避難小屋泊、念仏尾根から三方岩岳へと２泊３日で歩いてきました。まだまだ紅葉は早いですが、ナナカマドの実が赤く熟し、イワイチョウやハクサンフウロなどの草紅葉が始まっていました。それにいろいろな木の実がたくさん実っていました。ベニバナイチゴ、クロマメノキ、クロウスゴ、ガンコウラン、サンカヨウなどなど。
学生時代、ＰＷで一緒に行ったメンバーの人たちには、思い出された方もいるかもしれませんね。どれも食べられる木の実です。４年生の時、別山山頂でガンコウランの実を集め、持って帰り果実酒にしたことがありました。今ではそんなことはできませんが（自然公園法に触れます）、ひとつぶ、懐かしい味を味わうくらいは、山の生きものに許しを請うてもよいのではと、楽しんできました。
ゴマ平の小屋は２年前に新しくなってから初めてでした。旧ゴマ平避難小屋の少し上、三方岩岳方面へと分かれる分岐に、２階建ての木の香も新しい小屋です。詰めれば20～30人は泊ま

れます。水場も近くに十分な流れがあります。ちょっと残念だったのはトイレの臭いのきついこと（この秋には改善される予定）でした。登山道の状況は概ね良好で、草刈りもされていました。
今回も動物の糞拾いでした。３日間で合計180個ほどありました。テンやキツネの糞にも木の実が多くなり、秋を感じました。

――――――――――――――――――――１５期宇野
秋の小屋酒場、参加出来ずに残念です。
10月６日の締め切りまで参加しようか迷いながら気力のなさと浮き世のしがらみで、当日は休日出勤で過ごしてしまいました。
何か、大事なものを置き去りにしながら日々をついやしている後ろめたさをいまだに感じている自分に青臭さを感じながら 、50歳を目の前にする我に愕然とする今日この頃です。
倉谷の流れに身を浸す我を夢想しつつ、現(うつつ)に流す日々に、「おろろ」の幻の雄叫びが迫ってきます。気力が萎える前に、倉谷の息吹をもう一度この身に吹き込んでほしい。小屋酒場には行けなくても、いつかは行きたいと思っているファンが大勢いることを忘れないでください。

――――――――――――――――――――１５期舟田
さて、先月、呉服屋（！）の催しで、運勢をみてもらえるのがありました。保護者懇談会では、どうシビアな現実をぼやかした上にアドバイスすればよいか悩んでしまう私。どんな話術をするものかに興味があって、みてもらいました。彼女の占いの基本は、西洋占星術と姓名学なんだそうです。牡羊座の星と「節子」の名前はジャストマッチで、強いリーダーシップをもつことになるのだそうです。（ンダ、ンダ！）今年が変わり目の年にあたり、家族や何やで控えざるをえなかった所（何かの星が、かぶさっていたそうな）、来年からはそれがなくなり、一挙に能力を開花していけるそうな。（これ以上翔んでどうするんじゃ…旦那の陰の声）初期の目的を忘れ、上機嫌になってしまった私。催事でなかったら、思わず包んでしまったかも。
ともあれ超元気です。今晩は、村田お姉様の橋渡しで、木下元々室堂主任と力丸様計４名で会食することになっています。次回会報特集「山の語り部」の取材のためです。
３日前には、まず練習も兼ねて、林ナカオ代表に取材させてもらいました。あとで、送信しますが、それで特集の意図する所は十分に理解してもらえると思います。全員（６名を予定）の取材が終わったところで、微調整をやりますが、この草稿で、ＨＰに掲載していただいても構いません。（あれこれと、総会にむけての準備はしていかにゃあ）
なお、高三郎の新道の上部（クラコシ尾根）、作業が危険であり、やってもまたコシアゲ谷に崩落してしまいます。二又側（登りであれば、右）斜面にトラバース道をつけ直ししよう。そうすれば、女子が多数になってしまうかもしれない現役でも維持できるレベルになるであろう。と、来年、ナカオ他の方の手も借りて、付け直しをやってみるつもりです。標柱も立てた、ダムサイトの道もきれいになった、小屋だって楽しく使える…今やらないと、高三郎は復活できません。現役に２００万円は持ち過ぎ。それを原資（やったぜ飲み会程度）に、人を雇い、安全な登山道にしてしまい、今後の現役も長く部のバイトとして関わっていけるように、投資したいと思います。犀川源流域は、ナカオが世間に認められた大切な山域であり、どうしたらいいのだろう？に応えてくれるボスを得たのは、それも「節子の星」なんでしょうね。付け替え作業については何度もではなく、一度の山行で。その替わり、現役はもちろん、草刈り十字軍のように多数に参加してもらい、一緒に道を開いた感動を味わってもらう。そのことで現役の「高三郎観」を一挙に変えてしまおうと思っています。
まさに、「開花の年」（もうちょっと、宝籤が当たるとかさあ…でも歓迎なんだけど）こんなことにワクワクしてしまう私って…。林さんのキャリアと人脈を頼ることになるので、彼の決定にあわせて。現役は主催側であっても、それに協力の決定順となります。来月のナカオ納山会には、来年度にやる仕事として林さんが発表するでしょうから、ＯＢ会役員の新年会、また会報にも間に合うと思います。任期末にいい仕事ができるんではないでしょうか？

――――――――――――――――――――１５期松林
さて、１年半前からウオーキングにはまっている流れで、１７日の土曜日、封切初日に映画「伊能忠敬―子午線の夢」を見に行ってきました。その熱気がさめぬまま、次は本屋へ立ち寄り、新潮文庫の「伊能忠敬を歩いた」（佐藤嘉尚著）を買ってきて読み始めたのです。すると、その６５ページに「国土地理院の長岡正芳さん」という方が登場するのを見つけました。はて？　「長岡正利さん」ならよく存じ上げているのですが、国土地理院には同じような名前の方が別にいらっしゃったのでしょうか？
あの「伊能ウオーク」は、残念ながら朝日新聞社の主催だったこともあって、イベントが行われた当時はまったく関心がなかったのですが、今になって、映画を見たこともあり、がぜん興味がわいてきました。長岡さんが当時、このイベントに深く関わっていらっしゃったことも、佐藤さんの本で改めて知りました。
それにしても、伊能忠敬という人は、ウオーキングの神様だったのですね。

＜長岡さんより返事＞
それは，小生の名の書き間違いです。　(^^;)
なお，現在は，国土環境株式会社におります。（昨６月より）
ところで，今朝は，朝の２時半から，しし座流星群を見に。例年になく見事で，時には，２～３個が同時に出現。
よって今日は，日中もふと眠くなるような一日でした。
いま思い起こすと，流星跡を残したようなものの場合，聞いているラジオに雑音が出ているような，ふとそんな気になる。静けさの夜空の中での大競演でした。

――――――――――――――――――――１８期大西
残暑お見舞い申し上げます。
ご無沙汰しております。（昨夏の花・星・人の感想文以来、当節は大変お世話になりました。

）当方、山は登りたし、しかし、気力、体力、時間が行く手を阻んでいる状態が続いてます（言い分けか）昨日、お盆休みを利用して帰省（石川）から戻ってきたところです。石川県も暑かったけれど、ここ大阪は３７℃と狂わんばかりの暑さです。東京も暑かったし、この夏、自分の動くところに灼熱の太陽がついて回っているのではないかと思うほどです。
今、エアコンをびんびんかけて甲子園を見ていますが、球児たちが熱中症にならないかと心配しています。でも、若さってすごいですね。アウトとわかっててもｍ命にヘッドスラディングするし、ベンチに戻ってくるのも走ってくるし、これが高校野球のさわやかさか。ティーショットを大きく横に曲げても走ろうとしない大人と違いますね。
我もさわやかなビールでも飲もう！！　ちょっと違うかな。
皆様はいかがお過ごしですか。
さて、この度、突如、東京転勤が決まり、７月より江戸川区に住んでおります。家族は父との同居に何の関心を示さないため、当然単身赴任です。当面の課題は休日をどう過ごすか。何年いるかわかりませんが大都会を楽しみたいと思います。在京のOBの皆さん、暇があれば声をかけてください。

――――――――――――――――１８期横井

新年明けましておめでとうございます。
18期の横井です。
毎々ＯＢ通信ありがとうございます。奥名会長のお便りに季節を感じ、添付いただいている写真に心がなごみます。
やまざとも内容がますます充実して舟田さんはじめ事務局の皆さんにはお礼の言いようがありません。
なかなかに仕事に追われてと言い訳して、登山することに気が向かないですが、歳を取るにつれて、年1回位自然に親しみたいと思うようになってきました。昨年は5月の連休に谷川岳に行きましたが、思いの外、雪が深く、家族は登山の経験もないので途中下山してきました。「行きたいなら、お父さんだけで」と言われ、今年はひとりで行く事になりそうです。

――――――――――――――――２２期森

舟田さん、絵葉書ありがとうございます。いい秋の日でしたね。いつか行きたいという気持ちがまた募りました。山小屋酒場の案内もありがとうございます。参加はできませんが、皆さんで懐かしく楽しい夜をお過ごしください。
２２期の青木　康治さん（旧姓嶋田さん）が２００１．９．１５に急逝されました。闘病生活の末ということでした。同期のメンバーで福井松岡町で行われたお通夜に参加しました。なかなか会えなくても、いつか会える、元気でいてくれていると思ってきたのに・・。とってもさみしくなりました。また、２２期で集まろうとその夜話し合いました。

――――――――――――――――２６期畠山

休日の早朝、インラインスケートをやっています。　冬はスピードスケートをやりますが、滑りの感覚はよく似ています。　通常のスキーとは全く違いますが、ショートスキーの感覚とは通じるものがあり、緩い下り坂ではショートウェーデルンを楽しむことができます。　アパート前の水族館の駐車場で、子供の自転車と競争しながら遊んでいますが、早朝トレーニングは海岸線を３０－５０ｋｍ走ります。　直江津から糸魚川までの海岸沿いのサイクリングロードが整備されていて、ここを朝日を浴びながら風を切って走るのはとても爽快です。　親不知あたりまでの海岸線は変化に富んでいて、遠出の楽しみでもあります。
スピードや技術を追求する走り方はしないので、靴は柔らかめで、荒れた路面や、多少の段差でつまずかないように車輪サイズを大きめにして、柔らかめのローラーにしています。　ブレードが外せるタイプなので、疲れたら復路は電車に乗って帰ることもありますし、子供の自転車に付き合いながら遠出することもあります。
もう１ヶ月もすれば北アルプスや妙高は真っ白です。　１０年ぐらい前は、１１月の２週に唐松岳の上から八方尾根上部の初滑りを楽しむのが恒例になっていましたが、今年はどうでしょうか。

――――――――――――――――３６期蒲原

いつもお世話になっております。
又今年も,息子の追悼山行に行ってきます
日程は８月２４，２５，２６日です。剣岳

今年で９回目です
私達夫婦は息子を通じて,山が好きになりましたッテ行ってもまだまだ駄目ですけど、剣にいきなり行き色んな山に登ってから行くなら解るけど，まだまだ、未熟ですが少しずつ他の山にも行って見たいっと思っています。
又、行ってきましたら報告します
宜しくお願いします。